

# 中国における高齢者の介護

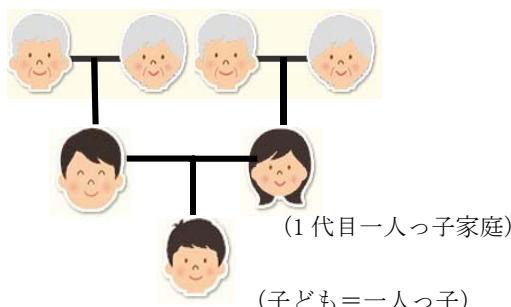
北京科学学研究センター  
客員研究員 張 燕妹

## 1. はじめに

中国では、長い歴史を通して、家族が責任をもって老親を扶養する伝統があり、人々の中に根差している。「養児防老」（子どもを育て、老後の不安を防ぐ）、「三・四世代同堂」（三・四世代大家族のこと）が伝統的な家族観であり、子どもより高齢者を大事にすることが一種の美德であった。

しかし、高度な経済成長とともに生活スタイルや家庭観の変化が大きく、「核家族」、「三人家族」が増え、家族構成も変わりつつある。三世代の伝統家族が少なくなり、また、1979年に「計画生育政策」（いわゆる「一人っ子政策<sup>1)</sup>」を実施したことから、今日では家族による「家庭養老」ができなくなる現状にある。一人っ子同士の夫婦が老父母4人と子どもを養う「421家庭」<sup>2)</sup>という逆ピラミッド型の扶養パターンに直面、伝統的な家族扶養機能が弱まり、夫婦二人が働きながら家庭で「孝行」するのは「力不足」で、くじけてしまうケースが続出、深刻な社会問題になっている。

図1 中国の逆ピラミッド型家庭構造



このような状況の中で、中国都市部では、要介護高齢者の急増に伴う高齢者扶養機能の低下などにより、高齢者の扶養は、家族を中心とする方式がやがて崩壊すると言われており、高齢者介護の社会化が新しい社会問題として顕在化している。

## 2. 人口高齢化の現状および特徴

中国国家統計局が2015年1月に発表した最新人口統計データによると、2014年末時点、中国大陸部（香港・マカオ・台湾など含まず）の人口は13億6,782万人に達した。65歳以上の人口は1億3,755万人、全体の10.1%を占め、初めて10%を超えることになる。また、老人人口指数<sup>3)</sup>をみると、13.7%となり、毎年少しづつ上昇している（表1）。

全国高齢者事業委員会弁公室（中国語：全国老龄工作委员会办公室）は2006年2月に公表した、『中国人口高齢化の発展趨勢に関する予測研究報告』（中国語：「中国人口老龄化发展趋势预测研究报告<sup>4)</sup>」）によれば、

中国における人口高齢化の主な特徴は、次の六点に要約できるとしている。

第一に高齢者人口の規模が大きい、第二に高齢化の進展が急速である、第三に地域間の高齢化の差が大きい、第四に都市部と農村部における高齢化の格差がある、第五に女性高齢者の数が男性高齢者より多い、

第六に経済成長の途上状態の中で高齢化社会を迎える、「未富先老」（社会が豊かになる前に高齢化を迎えていたこと）である、といった特徴がある。このような特

徴から、大規模かつ急速な人口高齢化には政府だけでは対応が難しいことが予想される。

表1 人口年齢構成と老人人口指数

(単位:万人、%)

年次	総人口 (万人)	人口			構成比 65歳以上	老人人口指数
		0-14歳	15-64歳	65歳以上		
2005年	130,756	26,504	94,197	10,055	7.7	10.7
2006年	131,448	25,961	95,068	10,419	7.9	11.0
2007年	132,129	25,660	95,833	10,636	8.0	11.1
2008年	132,802	25,166	96,680	10,956	8.2	11.3
2009年	133,450	24,659	97,484	11,307	8.5	11.6
2010年	134,091	22,259	99,938	11,894	8.9	11.9
2011年	134,735	22,164	100,283	12,288	9.1	12.3
2012年	135,404	22,287	100,403	12,714	9.4	12.7
2013年	136,072	22,329	100,582	13,161	9.7	13.1
2014年	136,782	22,558	100,469	13,755	10.1	13.7

(資料) 中華人民共和国国家統計局、【国家数据】—「人口年齢结构和抚养比」

(2015年12月1日取得、<http://data.stats.gov.cn/easyquery.htm?cn=C01>)による。

### 3. 家族扶養の限界および高齢者の社会扶養

中国では、老親の扶養が子どもの法的義務とされている。中華人民共和国『憲法』第49条第3項に「成年の子は父母を扶養・扶助する義務を負う」という規定がある。しかし、先述したように、「一人っ子政策」を推進してきた中国では、現在、家族が「一人の子ども、二人の親、それぞれの祖父母四人」という「逆ピラミッド」構造が顕著になっており、今後さらに親の扶養義務を背負われた子どもへの負担が重くのしかかっていくことになる。膨大な数の要介護高齢者が、今後さらに増え続けていくと予測される中国において、家族扶養を前提とし

た現状の高齢者福祉施策の限界は目に見えている。中国の都市部において、核家族化が進み高齢者だけの、「空巣家庭（子どもが巣立ち老夫婦だけが残った世帯）」が急速に増えつつある。このように、これまで世代同居が大半を占めていた中国では、親子が別居するという住様式の新しい動向がみられる。また、都市部のみならず、出稼ぎ率の高い農村部でも高齢者夫婦のみの世帯が増加し続けている（表2）。

従来、中国政府の高齢者政策は主に都市部では「三無（法定扶養義務者がいない、労働能力がない、収入がない）」高齢者、農村部では「五保（食事、衣服、医療、住宅、

葬儀への保障)」を要する高齢者といった特定対象者に対する救済措置として生活保障の取組みがなされた。しかし、市場経済への移行期(1978年～1992年)及び社会主義市場経済期(1992年以降)には、計画経済から市場経済への過渡期において「少子化」と「高齢化」が地域の共通課題となるなかで、国有企業は改革・リストラされ、地域型福祉として新たに「社区服務(地域コミュニティ福祉サービス)」が開始され、高齢者福祉施設への自費入所等を含めて、社会

主義市場経済の発展と両立させた年金制度、医療制度、高齢者福祉やサービス整備が広く模索されるようになった。

2011年12月に「高齢者の社会扶養サービスシステム構築計画(2011～2015)」が國の方針として打ち出され、在宅扶養(家事・訪問介護)を基礎に、「社区」を拠り所とし、高齢者扶養施設によるサポートを特徴とする高齢者扶養サービス体系を確立する方針を打ち出した。

表2 「空巣家庭」比率の変化

地 域 別	2000年	2006年	2010年
都市部	42.0%	49.7%	54.0%
農村部	37.9%	38.3%	45.6%

(資料) 中国网、2007、『「中国城乡老年人口状况追踪调查」研究報告』(2015年12月1日取得、[http://www.china.com/news/txt/2007-12/17/content\\_9392818.htm](http://www.china.com/news/txt/2007-12/17/content_9392818.htm))、および、全国老龄工作委员会办公室、2012、「2010年中国城乡老年人口状况追踪调查情况」(2015年12月1日取得、<http://wenku.baidu.com/view/657cb01ac281e53a5802ff30.html>)より筆者作成。

#### 4. 「社区服務」による高齢者介護

1990年代、都市の社会保障体系が注目され始める中で、「社区<sup>5)</sup>」=地域コミュニティ(community)の語が急浮上し、その活用が重視されるようになってきた。従来は「単位(職場組織のこと。英語では、work unitあるいはworkplaceと訳される。)」が生活保障機能の末端を担ってきたのが崩れ、他方で地域住民の生活共同体の重視により、「社区」でこの高齢者活動、衛生、住民サービス、障がい者福祉など整備されつつある。

「介護の社会化」という政策課題の一環として、中国政府は「社区」(コミュニティ)を基盤とした高齢者介護サービスのネット

ワークの整備に入れている。1993年以後、都市部の当該区域を管轄する行政の末端組織である「街道办事处」が「社区服务中心」を設立、「社区」内の住民に福祉サービスを提供している。2011年末時点、その数は7万547カ所に達した(日本貿易振興機構2013:40)。

現在、各地の「社区」サービスは、基本的に家庭訪問サービスと施設通所サービスを組み合わせたものとなっている。介護が必要な高齢者を中心に訪問サービスを提供、外出困難な高齢者を対象に配食サービスを提供、また「社区托老所」、「日間照料中心

(デイケアセンター)」というデイサービス を提供している（表3）。

表3 「社区」サービスの主な種類とその内容

サービスの種類	サービスの内容
在宅介護／訪問介護サービス	地方政府が出資・補助する在宅介護、訪問介護サービスは、介助が必要な高齢者を対象に、「社区サービスセンター」は登録されたホームヘルパーや介護従業員を各家庭に派遣し、排泄、食事、掃除や洗濯など日常生活上の世話、通院の付き添い等の介護サービスを提供する。利用者は、自立で生活できない高齢者、「空巣老人」や障がいを持つ高齢者が多く、低所得者が大半を占める。
施設通所サービス／デイサービス	政府が出資・運営する「社区日間照料中心」（「社区」デイケアセンター）は都市部を中心に展開され、主に自立で生活できる高齢者、外出できる高齢者を対象に、食事サービス、高齢者イベント開催や交流、娯楽スペースなどを提供している。一部の施設は健康管理、リハビリなどのサービスも行う。
配食サービス	「社区サービスセンター」は主に健康高齢者を対象に昼食事を提供する食堂サービス、外出困難な高齢者に対し、高齢者の自宅に食事を届ける食事配送サービスなど「高齢者の食卓」サービスを提供する。

## 5. 都市部における高齢者介護の社会化

都市部の家族介護の長期化、要介護高齢者の重度化によって、高齢者介護の社会化が必要とされている。各都市部の政府は、在宅介護サービスの整備と施設介護サービスの拡充の積極的な取り組みをしている。

上海市は、中国で最初に高齢化社会に突入した都市であり、高齢化のスピードは先進国よりも速く、中国全国の平均水準より速いことが知られている。上海市は、「90-7-3」という新たな介護方式を提唱した。それは、「第11次5カ年計画」期（2006～2010年）において、90%の高齢者が社会的な支援サービスを利用しながら家族介護を維持し、7%の高齢者が「社区」の在宅介護サービスを利用し、3%の高齢者が介護施設に入所するという介護方式である。

北京市も2009年1月、北京市民政局等が発表した「高齢者扶養施設の発展の促進に関する意見」により、「90-6-4」という介護方式が打ち出された。目標として、2020年までに、同じく90%の高齢者が社会的な支援サービスを利用しながら家族介護を維持し、6%の高齢者が「社区」の在宅介護サービスを利用し、4%の高齢者が高齢者介護施設に入所するという介護方式である。

前述した「高齢者の社会扶養サービスシステム構築計画」において、在宅介護を基本にし、「社区」介護を拠点にし、施設介護を補充とする、2015年までに在宅介護、「社区」介護、施設介護の三つの部分が相互に補完し合う介護福祉サービス体系を構築する要請した（表4）。

表4 「高齢者の社会扶養サービスシステム構築計画」の主要事業

介護の種類	目的	形式
在宅介護	住み慣れた地域で自立した生活を継続できるよう生活支援を行う。	訪問サービス形式 家政サービス、リハビリ、医療、介護、精神的ケアなど。
「社区」介護	主に日中に介護者がいない家族、または家族が在宅してもケアできない利用者を対象に専門的な介護サービスを提供する。	デイサービスと在宅扶養サポート コミュニティサービスセンターを増設、助け合いや共同参加を促進。
施設介護	主に入所した寝たきり及び認知症高齢者向けに介護サービスを提供する。	施設の建設を中心とする 日常介護：バリアフリー環境、専門設備などを導入。 リハビリ：関連機材や作業環境を整備。 緊急救援：疾病など突発的な状況への対処、施設内に医療所の設立を奨励。

(資料) 国務院弁公庁、2011、「高齢者の社会扶養サービスシステム構築計画」(中国語: 社会养老服务体系建设规划(2011-2015年))、(2015年12月1日取得、  
[http://www.gov.cn/zwgk/2011-12/27/content\\_2030503.htm](http://www.gov.cn/zwgk/2011-12/27/content_2030503.htm))による。

## 6. 高齢者介護サービスにおける問題点

「社区」の高齢者扶養サービス事業は、従来の企業福祉サービスから社会福祉サービスへの転換を推進してきた。これらの新しい社会サービスの展開により、高齢化社会を取り巻く経済、社会の諸問題や、国、企業、そして家庭の高齢者への介護負担が軽減されてきている。

以上のような全国に展開されている動きは、中国においては、政治・経済社会の変化によって、「社区」サービスの提供体系に違いがあり、地域差も大きいことは現状である。高齢者が在宅の自立生活を支援しながら、その家族の介護負担を軽減するた

めには、「社区」における対人援助サービスシステムの構築が不可欠となる。

一方、高齢者介護施設の設立と整備には限界があり、高齢者介護サービスを受けられない要介護高齢者がいる問題を解決するため、高齢者福祉施設を整備するとともに、家庭内で高齢者を介護する伝統的な高齢者扶養観念に適合した高齢者介護システムを構築することが2000年以降国策として推し進められている。上海市の「90-7-3」及び北京市の「90-6-4」介護方式、いずれのモデル事業においても最大の課題になっているのが財源の確保である。これらのモデル事業の成果を中国都市部のすべての

「社区」に広げていこうとすれば、まずはこの財源問題は一層顕在化することは言うまでもない。

次に、高齢者介護サービスの必要度が高まるにつれて、最も重要なものの一つに介護サービスを担う人材の問題がある。日本と同じく、より賃金の高い仕事があれば介護職から離れてしまうことも少なくない。

第三は、専門スタッフが足りないことがある。高齢者サービスは人へのサービス労働であり、そのサービスの量と質はサービスを提供する人材の量と専門的な技能と深く関わっている。高齢者扶養サービスを統括する老齢委員会の管理職のほとんどは他業種から移転ってきて、施設にかかる経営マネジメントの訓練を受けておらず、高齢者介護の経験もなく専門知識もないなかで、現場では摸索しながら試行錯誤を繰り返しているのが現状である。富裕層向けビジネスに付随する部分だけでなく、今後、教材の提供や施設向けの人材育成支援、政府系施設管理職の研修など公的サービスのサポート事業の需要も増えると考えられる。

## 7. おわりに

近年、中国には、高齢化の進展による家族形態の変化は、家族による老親扶養の能力の低下を引き起こし、高齢者に対する家族の生活保障は危機的な状態に陥っていることがわかった。さらに、現代化・都市化の急進、核家族の激増により、一人暮らしの高齢者や高齢者夫婦のみの家庭が急速に増え、加齢に伴う要介護問題も顕在化し、高齢者が在宅で安心した老後生活を送ること(家族扶養)は困難となってきた。

中国では、国に高齢者の面倒を見る義務があるという考えは一般的ではなく、そうした考えに立った法律も保障もない。逆に、

高齢者の面倒を見るのは子どもたち若い世代だという法律はある。伝統的に儒教的な思想で子どもは親孝行をしなければならないということがあるが、ただ、実際には、都市部のみならず、農村地域では、経済的な理由などで子どもが高齢者の面倒を見ることが困難である。

また、全国高齢者事業委員会弁公室は2013年2月に、高齢者事業の発展状況に関する全面的な総括と評価を行った「中国高齢者事業発展報告(2013)」<sup>6)</sup>を発表した。報告によれば、中国の高齢化事業が現在直面している主要問題は、①高齢化に対する戦略的政策立案と計画の立ち遅れ。②政府・市場・社会など複数の主体が共同で打ち立てる高齢化対策が未完成。③老後保障と医療保証の低水準。④農村における高齢者事業の発展の滯りであるとしている。

近年、中国政府は、都市部で基本養老保險と基本医療保險、農村部で新型農村社会養老保險と新型農村合作医療保險の拡大に取り組んでいるが、農村の養老保險加入率はまだ低い。高齢者の在宅扶養、施設での集中的な介護と「社区」でのコミュニティケアが互いに補完し合う介護システムが徐々に構築されているが、日本や韓国、ドイツのような介護保険制度がないことも重要な課題となっている。

日本は、ドイツの介護保険制度を参考に議論が行われ、1997年に介護保険法が成立し、2000年から実施された。そして韓国では、ドイツと日本両国の介護保険制度、特に日本の制度を参考に検討が進められ、2008年に世界で3番目となる介護保険制度が創設された。

中国も、日本、ドイツ、韓国等の先進国の介護保険制度を参考し、中国の国情に相

応しい高齢者介護保険制度の構築に向けて検討を行おうとしている。

「高齢者が、介護が必要になっても、住み慣れた地域や住まいで尊厳ある自立した生活を送ることができるよう、質の高い保健医療・福祉サービスの確保、将来にわたって安定した介護保険制度の確立などに取り組んでいる。」として、厚生労働省においては、2025年（平成37年）を目指して、高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域の包括的な支援・サービス提供体制（地域包括ケアシステム）の構築を推進している。

中国では、高齢者の介護を従来の家族的介護だけで担っていくことはすでに限界が見えてきた。そこで、社会的介護への道を模索しなければならない。社会的介護への道を切り拓く方途として、「社区」のもつ意味が大きいであろう。家族による「孝行」の実践の社会化への転換において、「社区」の高齢者福祉サービスの形態はますます重要な役割を果たしていくことになる。

現段階の中国では、「社区」が高齢者にとって、最も直接的で、重要な福祉サービスの供給者となってくるのではなかろうか。

「社区」サービスによる介護は基本的な在宅介護であるが、在宅介護は施設介護に比べてコストが低いだけではなく、高齢者は自宅で残りの人生を送ることができるというメリットと、自分自身の好みに応じて生活ができるなどの利点もある。

21世紀初頭の中国においては、高齢者の介護の主な拠り所はなお家族であるが、公的介護も「社区」サービスを中心に整備を進めることができ潮流になってくるものと思われる。

(注) -----

<sup>1</sup> 30年以上にわたって続けられてきた人口抑制のための「一人っ子政策」が修正された。2013年11月12日に閉幕した中国共産党第18回中央委員会第3回全体会議で、1979年に導入した「一人っ子政策」の緩和を明確に打ち出し、夫婦のどちらか一方が一人っ子なら第2子まで出産を認めることを決めた。2015年10月29日に閉幕した中国共産党第18回中央委員会第5回全体会議で、36年間国策としてきた「一人っ子政策」を完全に廃止し、夫婦が子どもを2人まで持つことを認めることを決定した。

<sup>2</sup> 近年中国では、一人っ子同士が結婚してつくる家庭を「421家庭」という。すなわち4人の双方の父母、一人っ子同士の夫婦、そして彼らの子ども1人という7人から構成される家族関係、これが一般的な家庭の姿になりつつある。

<sup>3</sup> 老年人口指数=65歳以上人口／15～64歳人口×100

<sup>4</sup> 「中国人口老龄化发展趋势预测研究报告」、(2016年6月30日取得、  
<http://www.cncaprc.gov.cn/contents/16/11224.html> )

<sup>5</sup> 「一定の地域範囲内に人々が集まり、組織された社会生活の共同体」と政府が定義している。

<sup>6</sup> 中国老齡科学研究中心編、2013、『中国老龄事业发展报告(2013)』社会科学文献出版社.

## 【引用・参考文献】

(日本語)

畢麗傑, 2010, 「中国都市部における高齢者介護の社会化—北京市と上海市の事例研究を通じて—」『立命館国際研究』第23巻1号, 立命館大学国際関係学会

畢 麗傑, 2011, 「中国都市部における公的介護  
保険制度創設の可能性—ドイツ・日本・韓国の  
介護保険制度の比較を通して—」『立命館国  
際研究』第 23 卷 3 号, 立命館大学国際関係学  
会

国立社会保障・人口問題研究所, 『人口統計資料  
集(2013 年版)』, (2015 年 12 月 1 日取得,  
[http://www.ipss.go.jp/syoushika/tohkei/  
Popular/Popular2013.asp?chap=0](http://www.ipss.go.jp/syoushika/tohkei/Popular/Popular2013.asp?chap=0))

国立社会保障・人口問題研究所, 『人口統計資料  
集(2014 年版)』, (2015 年 12 月 1 日取得,  
[http://www.ipss.go.jp/syoushika/tohkei/  
Popular/Popular2014.asp?chap=0](http://www.ipss.go.jp/syoushika/tohkei/Popular/Popular2014.asp?chap=0))

石田路子, 2013, 「中国における高齢者介護サー  
ビスの現状と課題」『城西国際大学紀要』第  
21 卷第 4 号, 城西国際大学

日本貿易振興機構編 (北京事務所), 2013, 『中  
国高齢者産業調査報告書』(2015 年 12 月 1 日  
取得,  
[http://www.jetro.go.jp/jfile/report/070  
01397/ChinaKoreishaRev.pdf](http://www.jetro.go.jp/jfile/report/07001397/ChinaKoreishaRev.pdf))

佐藤康行・清水浩昭・木佐木哲朗編, 2004, 『変  
貌する東アジアの家族』早稲田大学出版会。  
田雪原・王国強編, 中国人口学会著, 法政大学  
大学院エイジング総合研究所訳, 2008, 『中国  
の人的資源—豊かさと持続可能性への挑戦』,  
法政大学出版局

張 燕妹, 2003, 「中国における『社区』の発展  
と現状—高齢者扶養を中心として—」『社会学  
論叢』第 147 号, 日本大学社会学会

張 燕妹, 2005, 「中国の高齢者扶養における『社  
区服務』の役割に関する研究—北京市の事例  
を中心に—」『社会学論叢』第 152 号, 日本大  
学社会学会

張 燕妹, 2014, 「中国における高齢者扶養—『社  
区』からの接近—」, 松本誠一・高橋重郷編,  
『社会・人口・介護からみた世界と日本—清  
水浩昭先生古稀記念論文集—』時潮社

張 燕妹, 2016, 「中国における高齢者の介護」,  
清水浩昭・工藤豪・菊池真弓・張燕妹著, 『少  
子高齢化社会を生きる—「融異体」志向で社  
会が変わる』人間の科学新社

## 【付記】

本稿は「中国における高齢者の介護」(清水浩  
昭・工藤豪・菊池真弓・張燕妹著, 『少子高齢化  
社会を生きる—「融異体」志向で社会が変わ  
る』人間の科学新社, 2016 年) を基本にしながら  
加筆・修正したものである。

## 筆者プロフィール

張 燕妹 (ちょう えんめい)  
北京科学学研究センター 客員研究員  
1999 年日本大学文理学部社会学科卒業、  
2006 年日本大学大学院文学研究科社会学  
専攻博士後期課程修了。博士 (社会学)

日本大学文理学部人文科学研究所研究  
員を経て、現在北京科学学研究センター  
客員研究員。

共著に『社会・人口・介護からみた世  
界と日本—清水浩昭先生古稀記念論文集  
—』(時潮社、2014 年)、『少子高齢化社  
会を生きる—「融異体」志向で社会が變  
わる』(人間の科学新社、2016 年) など  
がある。

